

2年部学年通信「伐株山」

玖珠美山高等学校 2年部 学年通信・第8号 3月22日発行

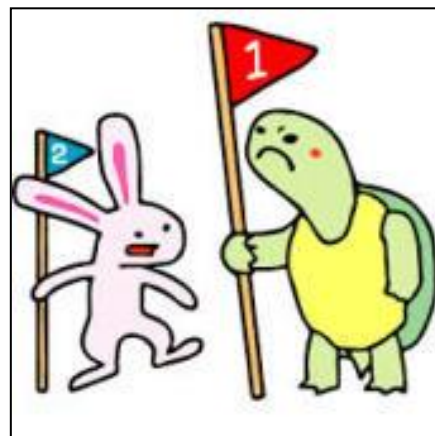
早いもので、玖珠美山高校に入学してから2年がたちました。この1年間、みなさんは2年生として部活動では中心となって活動し、学習においては進路実現に向けてより一層努力したことと思います。また、2学年の目標「考」・「爽」を意識し、様々な経験を通して大きく成長できた1年間であったと思います。さて、春休みが終わるといよいよ3年生です。高校生活もあと1年となりました。部活動も勉強も高校生活の総決算です。自分の力をしっかり出し切れるよう1日1日を真摯に過ごして欲しいと思います。

競争意識

「物質的な敵対行為という武力戦争は廃止され停止されようが、精神的な闘争はなくなることはない。そして、この闘争の心は、人間の原罪であって、この心が私たちの創造行為を発動させており、私たちをして理想の実現のために努力させているのである。」（イギリスの歴史学者A・トインビー）

トインビーが指摘するように、ライバルに負けたくないという気持ちが人類の発展に寄与した功績は図り知れません。もし、人間に競争意識がなかったとしたら、人類の歴史は停滞したままになっていたでしょう。競争意識は、よりよい状態を追い求める心、進歩への意欲、向上への情熱を沸き立たせてくれるからです。

人は誰でも、負けん気や優越感、自負心や「他人から評価されたい」と願う内に秘めたる欲求（自我優越欲求）を持っています。この自我優越欲求は、普段はただ漠然と意識されているだけですが、特定のライバルの存在を自覚すると、鮮明に意識化され、やる気が生まれてきます。（勿論、その自我優越欲求を満たすために、不正な行為を肯定したり、目的達成のためには手段は選ばないと言うような偏った考え方が許される訳ではありませんが。）



アスリート達が、一秒でも速く走り、一センチでも遠く高く飛ぼう、投げようと練習に励む。プロ野球選手が、一厘でも打率を上げよう、一点でも打点を稼ごうとバットを握りスイングを繰り返す。格闘家が少しでも強くなろうと、トレーニングに明け暮れ技を磨く。これらは自我優越欲求に支えられた強烈な競争意識と結びついています。ライバル同士がしのぎを削って競い、そこからもたらされる打ち勝つ喜びの経験が、また逆に、ライバル

に負けた悔しさの体験が、自己の能力を急速に伸ばしていくのです。

ライバルを見つけ競争意識を高揚させていくことは、受験にとっても非常に重要です。就職試験や大学受験は資格試験と違い、何点以上取ればもうこれで十分という基準ラインがあるわけではありません。自分がよく頑張った、良くできた満足していても、それ以上の高得点者が大勢いれば不合格になるのですから。限られた定員を巡って争い、一点でも多く得点した者が勝つという厳しい戦いなのです。春休みが終わればよいよ3年生です。全国のライバルである受験生に勝つためには、これから勝負です。

このようにライバルの存在は自分自身を成長させてくれます。クラスにライバルはいますか？ 身近にライバルを見つけて、お互い**切磋琢磨**して競い合い努力していくことは互いを高めあうことになり、受験勉強においてはかなり効果的な方法といえるかもしれません。これからも継続的な努力を心がけて欲しいと思います。



○「**玖珠の町に出てみよう**」ポスターセッション

2月8日（金）7限の「総合的な学習の時間」に、「玖珠の町に出てみよう」ポスターセッションが実施されました。2学期以降、2年生は玖珠郡内の企業に訪問し、様々な話を聞く中で玖珠郡が抱える課題に向き合い、自分たちがどのように関わっていくべきかを考えてきました。今回のポスターセッションは、この活動を通して学んだこと、考えたことをポスター形式にまとめて発表するものでした。当日は、10教室に分かれて発表がおこなわれ、1年生も発表を聞きました。

将来の自分の進路選択にむけて大いに参考になったとともに、玖珠郡の地域産業について考えるよい契機となったのではないのでしょうか。



<今後の行事予定>

- 3月29日（金）：離任式（8：30 体育館集合）
- 4月 8日（月）：始業式
- 4月 9日（火）：課題考査・入学式
- 4月10日（水）：課題考査
- 4月12日（金）：歓迎遠足（予定）

考

爽